

職員向けバリアフリー教室の開催

日 時：令和7年6月3日（火）10：00～15：40
場 所：北陸信越運輸局 4階 第一会議室
協 力：新潟市中央区社会福祉協議会 他
対象者：本局職員（20名）

○実施概要

運輸局職員を対象に、国土交通省のバリアフリー施策の基礎を知ってもらうため、バリアフリーに精通した有識者の講義のほか、法律などに関する講義を実施しました。

また、見えにくくなるゴーグルや体が重くなった感覚になる重りを身につけて高齢者疑似体験、庁舎の周りをアイマスクを着用して点字ブロック上を歩いてもらう視覚障害者体験も行いました。

体験後には、グループでの振り返りや意見交換を通じて、国土交通行政においてすべての人が円滑に移動しやすいまちづくりや公共交通のサービスの実現の意義について理解を深めました。

グループワーク・意見交換での発表（要約）

○バリアフリーに関する講義・体験を通じて気づいたことや一番心に残ったこと

- ・差別感が未だ無くせていない。周りの人がもっと助けることができるようになるべき。
- ・1つの障害への対応策が他の誰かにとって障害になりうる。
- ・テーマパーク等では音や匂いなどで変化を感じることができる。エリア間の移動においても大切なことを実感した。
- ・ハード整備だけではなく心のバリアフリーの重要性に気づいた。

○誰もが移動しやすいまちづくりには何が必要か

- ・地域でのバリアフリー対応に差がある。自治体同士での情報共有。
- ・障害への理解。声かけや介助の大切さ。雑音や騒音を減らす。ハード整備。
- ・限られたリソースを活用しながらもスマホなどでバリアフリー技術の導入を進める。
- ・大きい文字、見やすい色の看板。光の強さ。声をかけてほしいという意思表示のマーク。

○教室を通してあなたが所属する課など職場の人にぜひ共有したいこと

- ・被災者・事故被害者への対応時、それぞれの障害に対する理解を深めることが重要。
- ・旅客設備のバリアフリー化情報の発信が大切。
- ・様々な障害や特性に合わせた資料の作成、各種申請書、応接設備の工夫（文字の大きさ、色、点字設備等）
- ・公共交通利用時を含め、生きづらさをなくすため、お互いが理解し助け合える雰囲気作りが大切。
- ・公共交通機関でUDタクシーや福祉タクシーがあるという選択肢の多さが大切。
- ・意外なところが心のバリアフリーに繋がる。
- ・障害がある旅行者の誘客。文字だけではなく音での情報発信。



【講師による講話】



【車椅子実演・手話講座】



【高齢者疑似体験・視覚障害者体験】



【グループでの振り返り・意見交換】

